

演題 産褥期の尿失禁に対する骨盤支持ベルトの効果

【目的】

経膈分娩直後は、膀胱への児頭の圧迫、膀胱の位置がやや下方に変位することなどの影響により、一時的に排尿のコントロールが不良となる結果、尿失禁が発生することがある。多くは一過性で自然に治癒するが、通常の膀胱訓練などでは改善せず対処に苦慮する症例も存在する。

今回われわれはこのような症例に対して骨盤支持ベルトを用い、その効果を検討した。

【方法】

満期産正常経膈分娩となった初産婦で、産褥2日目を過ぎても軽快しない尿失禁症例8例に対して骨盤支持ベルト（トコちゃんベルトTM）を装着させ、その効果を検討した（A群）。同様の症例で骨盤支持ベルトの使用を希望しなかった6例をコントロールとし（B群）、両群間における尿失禁が回復するまでの分娩終了時からの日数、およびA群では骨盤支持ベルト装着前後での排尿感、膀胱充満感（visual analog scale, VASで評価）について比較した。

今回の研究では薬物療法は併用しなかった。なお研究の遂行に当たっては院内の倫理委員会に諮り許可を得た後、患者に十分なインフォームドコンセントを行い承諾の得られたもののみを対象とするよう配慮した。

【成績】

骨盤支持ベルト装着により、尿失禁はすべての症例で回復した。

回復までの日数は、A: 3.3 ± 0.4 、B: 6.7 ± 2.9 daysと、A群で有意に早く回復した ($p < 0.01$)。A群では骨盤支持ベルト装着直後より「身体に力が入りやすい」、「お尻の筋肉が締まった感じがする」といったコメントが得られ、尿失禁も装着直後より改善した。排尿感は装着前後で、 3.5 ± 1.9 vs. 7.6 ± 2.5 ($p < 0.02$)、膀胱充満感： 4.6 ± 2.7 vs. 8.0 ± 2.1 ($p < 0.01$) と、いずれも著明に改善していた。

骨盤支持ベルト装着による副作用は1例も認められなかった。

【結論】

分娩終了後は骨盤の各関節が弛緩する結果、骨盤輪不安定症候群を呈することが少なくない。

産褥期の尿失禁は様々な要因が作用するが、骨盤輪が不安定になることにより、会陰部の筋肉が随意に収縮しづらくなることも一因であると考えられる。

本研究の結果、そのような症例には骨盤支持ベルトは極めて有用であることが明らかとなった。